

ニュースガイド

- 2面 ワクチン3回目接種を開始／ツタンカーメン鉄剣はミタンニ国から／ロボットフォーラムに古田所長、宇井さん／アスタリスクが宇宙塵初観測に成功
- 3面 村雲さん2つの学会で受賞／渡邊さん優秀講演賞／堤野さん優秀発表賞／星原さん発表賞／森研3人が学生奨励賞／小浦教授に功績賞
- 4面 応用化学6人受賞／電気学会2人受賞／第2、第3回公開講座開く
- 5面 定年退職の皆さん／出版案内
- 6面 アルツハイマー病抑制で南澤チーム発表／カオス共鳴で電力削減／脳波で加齢効果推定／高校教諭セミナー開催／新任紹介

令和4年度 入学式



令和4年度の入学式は、4月5日(火)午前10時30分から、幕張メッセ・イベントホールで、コロナ禍のためご家族は遠慮いただき、新入生のみが参加して挙行されます。午前9時30分に開場、新入生は開式10分前までに会場に入場してください。式典はライブ配信を予定しています。

利用入学試験の検定料を免除したの1位の近畿大と本学のみの。今年度一般選抜志願者ランキング・代々木ゼミ集計(3月12日時点)では、昨年比128%と記録を伸ばし近畿大に次ぐ2位。推薦、一般と合わせた総志願者数は14万528人となった。

入試は1月15、16日に22年度大学入学共通テスト、2月1〜4日の日程でA日程、S A日程入学試験と続き、B日程入試が2月17、18日、また大学共通テスト利用入試(中期)も本学試験なしが行われた。

総志願者は14万人超す

3月3日のC日程入学試験を終え、2022年度の入学試験が全て終了した。今年度は昨年度に続き、共通テスト利用入試の検定料を免除したほか、新方式の入学試験を実施し、志願者ランキングでは7年連続トップ10入りを果たし、全国2位の座をキープ(下の表参照)3月12日、代々木ゼミナール調べ)。志願者増加数では昨年同様、全国1位となり、大躍進を果たした。

新型コロナ下の適切対策が効果

新型コロナウイルス禍の「元年」となった21年度入試では、私立大の一般選抜は志願者数が激減。競合大学が志願者確保に苦戦する中、本学では共通テスト利用入試の検定料を免除するなど、受験生への進学支援から離れる必要

はないと考える傾向が強まった。また、コロナ禍中、一般選抜実施会場に対する不安から、受験生は年内の総合型選抜、学校推薦型選抜で合格を決めたが傾向が見られた。

この結果、22年度の一一般選抜志願者数は、最多を記録した昨年をさらに上回り、13万9074人(昨年度比3万367人増)となった。昨年度の志願者数・私大トップ10を見ると、コロナ禍の影響から、大手私立大は軒並み志願者減となり、10

B日程入試では17の学外試験場(17日のみ)と合わせて実施。開始前日の2月16日夜、日本海沿岸を覆った低気圧の影響で、北海道から九州にかけて広い範囲で警報級の大雪が心配されたが、全国17会場、津田沼会場ともに日程通り、試験は終了した。

B日程の試験会場に入る受験生たち

一般選抜入試・志願者数の多い大学10校

大学	今年度		昨年度		増減数
	募集人数	志願者数	募集人数	志願者数	
1 近畿	5,075	157,466	4,951	135,979	21,487
2 千葉工大	1,396	139,074	1,379	108,707	30,367
3 法政	4,224	108,280	4,224	90,948	17,332
4 明治	5,358	102,426	5,360	99,470	2,956
5 東洋	5,500	98,261	5,634	89,808	8,453
6 早稲田	5,045	93,843	5,155	91,659	2,184
7 日本	7,688	93,770	7,709	97,948	▲4,178
8 立命館	4,797	88,335	4,797	83,512	4,823
9 関西	3,724	79,396	3,724	79,511	▲115
10 中央	4,269	63,355	4,280	77,357	▲14,002

代々木ゼミナール調べ(3/12更新)

2022年度志願者数

試験種	今年度	昨年度	増減
共通テスト利用(前期)	57,117	45,537	11,580
共通テスト利用(中期)	7,776	5,892	1,884
共通テスト利用(後期)	2,066	2,819	-753
A日程入学試験	34,411	28,829	5,582
S A日程入学試験(新設)	13,971	-	13,971
B日程入学試験	18,413	18,266	147
C日程入学試験	5,320	7,364	-2,044
一般選抜計	139,074	108,707	30,367

C日程入試の津田沼試験場



3月3日には、C日程入試が、本学会場に加え、サテライト4会場(札幌、仙台、名古屋、福岡)で行われたほか、大学共通テスト利用入試(後期)も本学試験なしが実施され、22年度入試が全て終了した。C日程入試には5320人、共通テスト利用入試(後期)には2066人が志願した。

志願者数は全国2位

新型コロナウイルス 3回目職域接種を開始

新型コロナウイルス（昨年6月）、第2回クチンの3回目職域接種（同7月）接種者を対象に、3月7、8、9、25、26、28、29日の7日間実施される。



前回同様、新習志野キャンパスは体育館、津田沼キャンパスは2号館2階会議室に会場を設け、朝10時から順次接種する。3月末までに学生・教職員のほか習志野市立幼

稚園、小・中・高等学校、計7470人に接種などの関係者、習志野商工会議所会員らを対象とする予定。3回目接種を終えた学

生たちは「卒業前に接種できて少しホッとしました」「実家に帰るため、少しでも安心材料になればと思います」と、安堵の表情を浮かべた。

ロボットの未来語る

フォーラムで古田所長、宇井さん

本学未来ロボット技術研究センター（furo）の古田貴之所長らがパネリストとして出席したフォーラム「最先端ロボットが開くリアルSFの世界」が2月23日、オンラインで開催された。フォーラムは一般から応募があった1200人が視聴。基調講演を行なった古田所長は「我々がやっていることはいかに『共創』が大事」との考えを強調

「ミタン」二国の贈り物

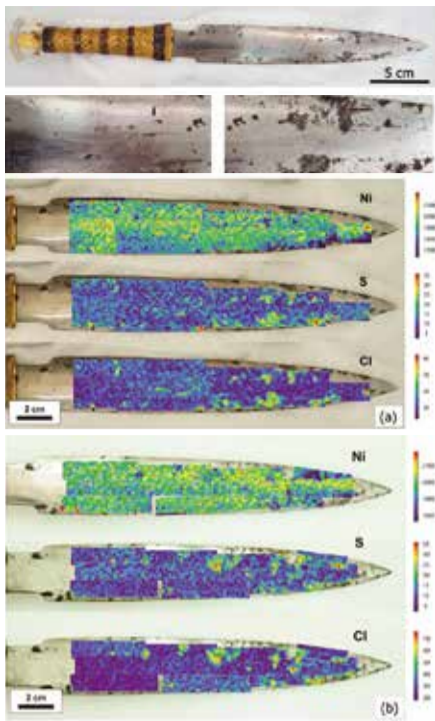
「隕石を熱して鍛造」解明

ツタンカーメン鉄剣で本学チーム

本学の松井孝典学長（地球学研究センター兼惑星探査研究センター所長）率いる研究チームは2月11日、古代エジプトのツタンカーメン王の墓から発見された鉄製の短剣が隕石を材料に鍛造と

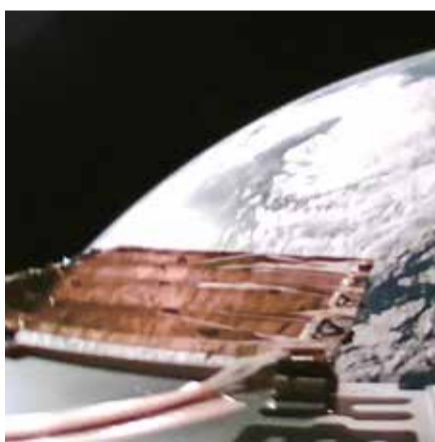
いう技術でつくられたことを明らかにした。また、この短剣がメソポタミア北部（現在のトルコとシリアの国境付近）にあったミタンニ王国から持ち込まれた可能性が高いことも発表した。

短剣が鉄隕石を材料につくられたことは、2016年にイタリアの研究チームによって発表されていた。



ツタンカーメンの鉄剣のさまざまな成分を非破壊・非接触で解析した画像（部分）

本学の研究チームはエジプト考古学博物館で、ポータブル蛍光X線分析装置を使って、非破壊・非接触で鉄剣の元素分布の分析を行った。その結果、鉄は通常セ氏1300度程度の高温にしてか



展開した膜型ダストセンサーをオンボードカメラで撮影した自撮り画像。センサーが固定されたパドル面には千葉工業大学の校章とPERCのロゴが印字されている

惑星探査研究センター（PERC）は2月15日、宇宙塵探査実証衛星「ASTERISCI」（アスタリスク）について、独自に開発した世界初の膜状粒子観測装置（大面積膜型ダストセンサー）を宇宙空間に開いて、軌道上の粒子の観測に初めて成功したと発表した。また、東北大学や関連メーカーと共同で開発した国産キューブサットバスシステム（電源系、通信系、データ処理制御系、姿勢系）についても、すべての技術実証に成功したことを

宇宙塵は生命の起源や惑星の起源を探る貴重な試料とされる。スペースデブリについては、人類

宇宙塵 初観測に成功

「アスタリスク」大センサーを展開

また、短剣の黄金製のつかの部分に微量のカルシウムが含まれていることが判明、当時のエジプトでは使われていなかった「しっくい」に含まれていた成分と判断した。さらに、本学研究チームは「ミタンニ王国からツタンカーメン王の祖父のアメンホテプ3世への贈呈品の中に鉄剣が含まれている」との内容がアマラルナレーターという古文書に記載されていることに着目。この短剣がミタンニ王国から贈られたと推測されるとの結論に至った。

松井学長は「当時、ヒッタイトとミタンニだけが製鉄技術を持っていた。ツタンカーメンの短剣がエジプトへの贈り物だったことが分かったことは、鉄器の歴史を知る上で貴重な成果だ」と話している。

今回の国の革新的衛星技術実証プログラムに採択されたASTERISCIの実証チームはこの膜型ダストセンサーの他に衛星バスシステムがある。

「Dr.STONE」は連載5年目。原作者の稲垣さんによれば、主人公が科学技術を一つ一つ発展させていき、最終目標は「ロケットを作って、月に行く」。稲垣さんは

「スーパヒーローが出てきて活躍するのは、見せやすいエンターテインメントの世界だが、この漫画ではみんなの力を合わせて、地道に積み重ねる作業が本当はかっこいいということを見せたかった」と強調。「地道な科学研究の積み重ねで、

増加しつつあることから、宇宙環境問題への取り組みとして定量的な観測・評価を行うことになった。



fuRo製作のCanguRo(カンゲーロ)を披露



意見を出し合う古田所長(左)と宇井さん

かっこいい未来SFの世界が実現していくのを楽しんでほしい」と語った。宇井さんは在学中に起業して10年。「テクノロジで誰もが介護したくなる社会をつくる」をモットーに排洩管を検知し介護職に伝える「介護ロボット」を製作。講演で「マイナスをゼロにするのではなく、プラスにする。最高のテクノロジで誰でも介護できる仕組みを作る」と同社の目標を明快に語った。最後に古田、稲垣、宇井さんの3人がパネリスト、朝日新聞大阪本社の

高山裕喜・科学医療部長がコーディネーターを務め、稲垣さんの「作品想像力の秘密に迫る」をテーマにパネルディスカッションが行われた。この中で、「ワクワク楽しいかが大事。そして、今ないものを作る」（古田所長）、「嫌いなことを頑張ると、好きになろうとするのは難しい。それよりは好きなことを伸ばしていくことが大事」（稲垣さん）、「高校2年で介護ロボットに出会った。おしゃべりなところか、ブランドを選ぶのではなく、何がやりたいかで選んでほしい」（宇井さん）などの意見が噴出。「ワクワク」「好きなこと」「やりたいこと」と3つのキーワードで、討論が交わされた。

照明・建築 両学会で受賞

LED照明研究 村雲さん



現する研究を進めてい
る。日本産業規格（JIS）
では、一般照明用の
蛍光灯は、照明光の
黒体軌跡からの偏差d
uが1.0・02以内なら
ば同一相関色温度と規
定。同規格がLED照明
にも適用されているが、
LED照明の光源色や照

らされた対象物の色の見
えを保証してはいない。
村雲さんは、LED照
明の偏差が空間の明るさ
の評価に与える影響を被
験者で実験。JIS規格で
同一相関色温度と見なさ
れる偏差の範囲内でも
明るさ評価が異なる場合
があることを確認した。

オンライン発表だった
ので、分かりやすい資
料作成を心掛けたとい
い、「修士初年での受賞
で」身の引き締まる思い
です。望月教授や研究室
仲間へ感謝します。今後
も照明分野の発展に貢献
できるよう精進します」と
語った。

定する時の風発生雑音の
低減などを実験した。
望んだ結果を得るため
に、何度も現場に向い
て実験。機材を改造しな
る多くの知識を得て、音

響分野への興味を一層深
めることができました。
「研究を通じて、計測
用マイクロホンや無響室
などの音響実験室に関す
る多くの知識を得て、音



掛けた。発表
ではカメラや
マイクで、対
面と遜色ない
やり取りがで
きるよう準備
した。

騒音制御研究に優秀発表賞

矢野研の堤野さん



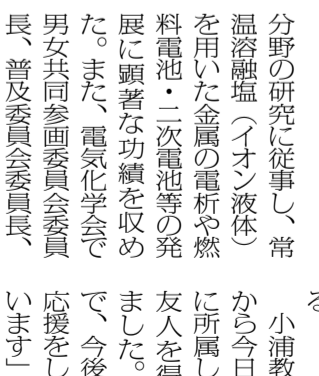
日本騒音制御工学会の
2021年秋季研究発表
会（昨年11月20、21日、
九州大を拠点にオンライ
ン開催）で、
堤野雅貴さん
（情報科学専
攻修士2年、
矢野博夫研究
室）が
「複数マイク
ロホン出力の
信号処理によ

る低音レベルの測定」
を発表し、1月6日付で
学生優秀発表賞を受賞し
た。

「音をテーマとする矢
野研究室で、近接配置し
た2つのマイクロホンを
使い、機器内部で発生す
る自己雑音を低減し非常
に低い音圧を測定する手
法を検討。この手法を応
用し、屋外環境騒音を測

電気・情報関係学会の
令和3年度北海道支部連
合大会（昨年11月6、7
日、オンライン開催）
で、星原寛明さん（電気
電子工学専攻2年、脳本
隆之研究室）が「ツエナ
ダイオードを用いた10k
V級直流高電圧基準測定
システムの構築」が発表
賞に決まり、1月6日付
で賞状が届いた。

国家標準の性能を持つ
高電圧計測技術の開発な
どで知られる脳本研で研



「思いがけな
い受賞で、今後への励み
になると感じています。
脳本先生と研究室の皆
様、両親に感謝していま
す」と喜んでいました。

プレキャスト 評価研究で受賞

橋本研の渡邊さん



建物のコンクリート部
材などを工場ですり生
産し、現場で短期に組み
立てるプレキャスト工法。
次世代プレキャスト施工
技術研究会の2021年
シンポジウムが昨年11月

5日、オンラインで開催
され、渡邊大河さん（都
市環境工学専攻修士1
年、橋本紳一郎研究室）
が「プレキャスト
コンクリートへの締め固
めを必要とする高流動コ
ンクリートの適用に
関する基礎的研究」が
優秀講演賞を受賞。12
月6日付で賞状が届い
た。

建設現場は
人手不足もあ
り、プレキャストコン
クリートによる施工の効
率が望まれている。型
枠で均一に締め固める
高流動コンクリートが
有効だが、プレキャスト
コンクリートの材料の
分離抵抗性を評価する
手法や配合設計手法は
確立されていない。

膨大な実験データの整
理や分析に苦戦。閾値提
案では、実務適用を見
えた値の設定やその根
拠の説明に力を注いだ。
渡邊さんは昨年9月の
土木学会で、高流動コ
ンクリート評価研究を
発表し優秀講演賞を受
賞。これに続く受賞で、
「施工技術シンポジウ
ムでも優秀講演賞を受
賞でき、自信につながる
と思います。成長の機
会をくださった橋本先
生や研究仲間、家族に
感謝しています」と語
った。

人工知能やセンサー、
IoT技術を探る情報処
理学会のコンシューマ・
デバイス&システム（C
DS）研究会は1月20、
21日、オンラインで開
かれ、知能メディア工学
科・森信一郎教授の研
究室の福田脩希さん、
中込瑞大さん、大石海
さん（3人も知能メ
ディア工学専攻修士2
年）が2021年度学生
奨励賞を受賞した。

「IoTを用いた獣害
対策システムについて
の検討」
「獣害対策は、被害防
除で電子鼠が成果を
挙げ

一方、生息域管理、個
体群管理は進展が遅い。
作業範囲が広いのに高
齢者が作業を担うため
だ。そこですでに獣道
の広範囲に設置されて
いる既存の鼠の活用を
提案。センサーとIoT
ネットワークを活用し
、鼠の制御や監視機能
を組み込むプログラム
を作成。動作を確認
した。

「研究が評価されうれ
しいです。森教授の指
導

「画像認識を活用した
都市部の河道における
位置推定技術に関する
検討」
「困難な中で進めた研
究を理解していただき
、うれしいです。指導
の森先生にとても感謝
しています」

森研3人が学生奨励賞

IoT技術 情報処理学会

3人の発表テーマと受
賞の感想は次の通り。
● 大石 海さん



「視覚障害者の自律
歩行支援を目的とし
たVisual-Inertial
Geometry (VIG) による
ナビゲーションシステ
ムの検討」
スマートフォンに搭載
されているカメラと慣
性センサーを用いた測
位技術（VIO）と、慣性
センサーだけで測位す
る歩行者自律航法とを
組み合わせ

「実現は難しい」と感
じていたけれど、あき
らめず調査・実験を進
めるうちに「意外と行
けるのでは」と、楽し
くなりました」

都市には河道と呼ば
れる地下トンネルがあ
り、建物へ電力や熱・ガ
スを供給する役割を持
つ。定期的に点検して
いるが、作業者の位置
情報を共有することが
重要。そこで福田さん
は、環境変化に強く機
器の設置も必要なく、自
律航法とVSLAMで得
られた情報を基に位置
推定する手法を提案
した。

「困難な中で進めた研
究を理解していただき
、うれしいです。指導
の森先生にとても感謝
しています」

「視覚障害者の自律
歩行支援を目的とし
たVisual-Inertial
Geometry (VIG) による
ナビゲーションシステ
ムの検討」
スマートフォンに搭載
されているカメラと慣
性センサーを用いた測
位技術（VIO）と、慣性
センサーだけで測位す
る歩行者自律航法とを
組み合わせ

「実現は難しい」と感
じていたけれど、あき
らめず調査・実験を進
めるうちに「意外と行
けるのでは」と、楽し
くなりました」

「実現は難しい」と感
じていたけれど、あき
らめず調査・実験を進
めるうちに「意外と行
けるのでは」と、楽し
くなりました」

応用化学 6人が受賞

材料技術の討論会

想は次の通り。

● 橋本 忠樹さん

「六角板状酸化亜鉛や
又ス微粒子を用いた微粒
子担持薄膜の調製」
微粒子の基板表面への
吸着挙動を制御すること
で、薄膜の物性を向上さ
せることを目指した。微

● 大澤 朗人さん

「複合有機テンプレー

ト法によるチタニアノリ
ン酸カルシウム複合粒子
の調製」
形態制御が困難な球状
多孔質粒子を合成する上
で、研究室が新たに提案
している複合有機テンプ
レート法(HOT法)を

● 加藤 優志さん

「ウルトラファイバ
ブル水を用いた新規サイ
ファクタントフリーエマ
ルションの探究とそのメ
カニズムの解明」
直径が1μm以下の気
泡IIウルトラファイバ

● 佐藤 校哉さん

「電気泳動電着におけ
る浴条件が及ぼす酸化セ
リウム膜への影響」
腐食防止や光学効果が

● 小井出 涼太さん

「CVDグラフェンの
転写法の検討」
半導体の基となるn型
グラフェンの作製につい
て、グラフェンに電子を
与える際、アルカリ金属
を浸漬で添加している
が、超音波を用いると膜
と基板の密着性、電気特
性が向上した。

材料技術研究協会の2
021年度討論会は昨年
12月2、3日、オンライ
ンで開かれ、橋本忠樹さ
ん(応用化学専攻修士2
年、橋本和明・柴田裕史
研究室)▽大澤朗人さ
ん(同)▽加藤優志さん
(同、小浦節子研究室)
▽山野凌さん(応用化学

科4年、同)の4人が優
秀口頭講演賞に。また、
佐藤校哉さん(応用化
学専攻修士2年、同)▽
小井出涼太さん(同1
年、同)の2人がゴール
ドポスター賞に決まっ
た。2月8日までに賞状
が届いた。

小な変化が結果に及ぼす
影響を分かりやすく説明
するよう心がけた。

「4月から社会人にな
るにあたって、評価され
ることの重みを見つめ直
す機会となりました」

ブル(UFB)は、水
中に長期間高濃度で貯蔵
が可能。その親油性に着
目し、界面活性剤を利用
しない新規乳剤の分散安
定化を検討し、そのメカ
ニズムを解明しようと試
みた。

「学部生で受賞でき光
栄です。小浦教授や産総
研の先生のおかげです。
ありがとうございました」

「修士課程の集大成の
発表で受賞でき、うれし
く思います。3年間、本
当に恵まれた研究環境で
した」



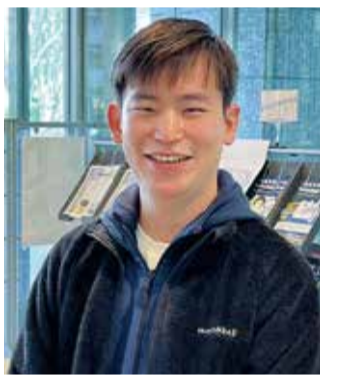
橋本さん



大澤さん



加藤さん



山野さん



佐藤さん



小井出さん

2人が優秀論文発表賞

電気学会 大岩さん、島田さん

● 大岩 弘明さん

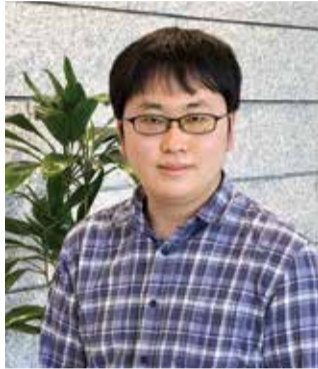
「3年間、山崎教授の
指導をいただけ、研究メ
ンバーと協力し合い、結
果を残せたことを誇りに
思います」

● 島田 晃汰さん

「同期電動機との相違
ムを考察し、IP
MSMの特性が更に改善
するよう検討した。」



大岩さん



島田さん

「同期電動機との相違
ムを考察し、IP
MSMの特性が更に改善
するよう検討した。」



◇横井特別教授

令和3年度特別公開講
座の第2回講座が1月23
日、オンラインで開催さ
れた。演題は「中国をめ
ぐる内外情勢と今後の日
中関係」。

「受賞に」驚き、頑張
って研究を進めてきてよ
かったと思えました。
発表資料は相手に伝わり
やすいよう、山崎先生の
助言で何度も作り直し
ました」

「同期電動機との相違
ムを考察し、IP
MSMの特性が更に改善
するよう検討した。」



「中国をめぐる」人材育成とは

公開講座第2、第3回開く

本学特別教授の横井裕氏
II写真IIが講演し、「日
米中の関係は、今夏の日
本の参院選挙、今秋の中
国の第20回大会と米国の
中間選挙がどうなるか
によって影響を受けてく
る。目が離せない状況」
と述べ、各国の政治情勢
を見極める重要性を
説いた。

「1970年代に米中
関係が改善。その流れで
日本は中国と国交正常化
した。東アジアの国際関
係は主に米国の対中政策
によって左右され、日中
関係も大きな影響を受け
る」と分析。「現在米国
は50年ぶりに対中戦略を
変更する局面にある」と

「人材育成とは指導
官(管理者)が行う部下
(若手)への全人格的教
育である」との考えを述
べた。

「人材育成に必要な要素
として、一決断、覚悟、
運」を挙げ、それぞれに
ついて、自らの陸上自衛
隊での経験を交えながら
解説。「困難を与えて質
的な変化を起す。困難
を乗り越えることで、能
力を突出させることがで
きる。」と力説した。

「人材育成とは指導
官(管理者)が行う部下
(若手)への全人格的教
育である」との考えを述
べた。

「人材育成とは指導
官(管理者)が行う部下
(若手)への全人格的教
育である」との考えを述
べた。

定年退職の皆さん

3月に定年を迎えられた教職員の皆さんを紹介し、大学と学生たちに、思い出と励ましの言葉を残していただきました。(敬称略)

教員(10人)

尾上 薫 (応用化学科・教授)



魅力は多面的に存在します。笑顔で前向きな人は魅力的です。

矢野 博夫 (情報工学科・教授)



四半世紀以上にわたり本学で音響研究を続けられましたのは、皆様のおかげであり深く感謝いたします。これからも伝統を守り、益々のご発展をお祈りします。

赤澤 元務 (教育センター・教授)



工大あってこそそのわが人生。深謝!

有井 奈保子 (教育センター・准教授)



がんばれ、千葉工大生! The Future Is Now!

西田 保幸 (電気電子工学科・教授)



ありがとうございました。

山本 秀和 (電気電子工学科・教授)



企業から大学に来て、多くの若者と接する機会は新鮮でした。頑張れ!千葉工大ファイトー・オー!

小浦 節子 (応用化学科・教授)



ありがとうございました。

井上 明也 (経営情報科学科・教授)



充実した日々を過ごすことができました。多くの皆様に大変お世話になり、感謝しております。

山口 佳和 (経営情報科学科・教授)



長いようであっという間の15年でした。やりがいと意義を感じられる幸せな教員生活でした。多くの方々に支援していただけて楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。

澁谷 和郎 (教育センター・教授)



千葉工大の今後のご発展と、教職員の皆様のご健勝と、多くの皆様のご活躍を心よりお祈りしております。これまで本当にありがとうございました!

職員(9人)

布施 富士子 (副グループ長・学務担当)



『和』(昭和から令和へつなぐ)

長田 龍介 (技術係長・研究支援担当)



読む・学ぶ・発見する 学部生時代に諸先生方が、板書して下さった講義ノートを繰り返し読み、自らが問いを発して考え、発見ないし探求する努力に精進して下さい。温故知新

稲葉 祐一 (事務職員・法人事務局)



素晴らしい環境の中で勤務することができ、心から感謝申し上げますとともに千葉工大の益々のご発展をお祈りいたします。誠にありがとうございました。

近藤 誠 (事務職員・法人事務局)



長い間ありがとうございました。千葉工大の益々のご発展と皆様のご活躍をお祈りいたします。

村上 吉信 (事務職員・総務部)



みなさんお元気で!

鎌田 行雄 (事務職員・総務部)



多くの先生方に接し、貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

金子 満男 (事務職員・総務部)



Even if elderly person never die, he certainly fade away. どうもありがとうございました。

坂本 正夫 (警備員・総務担当)



大変お世話になりました。ありがとうございました。

関根 保宏 (用務員・施設担当)



充実した11年間を過ごさせていただきありがとうございました。すべての方に感謝

出版

化学工学の21人が共同執筆。最近のファイナバ

ファイナバブル活用のアイデア



尾上教授



矢沢准教授

ブル情報を引用しながら発生技術、評価・解析方法、応用事例を全20章に分かりやすくまとめた。本学応用化学科の尾上薫教授が「第17章ファイナバブル」を執筆している。



最新の化学工学70

進化するファイナバブル技術と応用展開

著者：化学工学会関東支部編、化学工学/ファイナバブル学会連合著

発行：化学工学会 価格：3450円(税込み)

アルツハイマー病をユズ成分などが抑制

南澤准教授チーム 発見



南澤准教授(右から4人目)と研究室で活動する生命科学専攻・生命科学科(坂本研・黒崎研)の学生たち

先進工学部教育センターの南澤慶賢准教授を中心に佐藤佑真さん(生命科学専攻修士2年)、生命科学科の坂本泰一教授、河合剛太教授、先進工学部教育センターの谷合哲行准教授と(株)ionの研究グループは3月2日、アルツハイマー病(Aβ)の進行が、モデルマウスによる実験で、疲労回復作用のあるアミノ酸の1つ・Lアラギニンと、柑橘類に含まれるリモネンとの投与により抑制されることを発見。メカニズムを解明したと発表された。

情報伝送

カオス共鳴で電力削減

信川准教授ら開発

情報伝達のデータ量が世界で驚異的に増大する中で、情報工学科の信川准教授ら(写真)と東邦大、兵庫県立大、中部大、福井工業大のチームは2月15日、カオス共鳴を利用することでメモリデバイスへの情報伝送にかかる消費電力を飛躍的に削減できる機構を開発したと発表した。

技術にたがわり、低消費電力化で脱炭素への貢献も期待される。成果は米国に本部を置く電気情報工学分野の世界的団体IEEEの査読付き学術誌IEEEアクセスに掲載された。

これまで、外界のノイズを利用した確率共鳴に基づく低消費電力メモリデバイス機構は提案されてきた。今回、脳と腸のつながりを解明する中で、アルツハイマー病の腸内細菌叢の新規病態と投与効果

と腸で観察。リモネンと投与で腸内細菌叢の多様性を回復させた経緯がある。今回、脳と腸のつながりを解明する中で、アルツハイマー病の腸内細菌叢の新規病態と投与効果

これに対し、カオスによるシステム内部のゆらぎでも確率共鳴と似た応答性の増強現象が生じることが知られており、このカオス共鳴を使うと、メモリデバイス機構は、さらに10分の1程度の信号強度でも情報が保存できるという。

脳波で加齢効果を推定

安藤さんら解析アルゴリズム開発

脳機能の多くは、加齢で衰えていくが、本学の専攻修士2年と信川創

は、言い換えればデジタルネイティブのZ世代(20代後半〜10代半ば)をどう教育するかという

「データをみる基礎的な部分は高校で理解できるようにして、応用は大学で」(稲坂准教授)、「科学的に自分の主張を展開する技術が必要だ」(信川准教授)などの意見が出された。

「データをみる基礎的な部分は高校で理解できるようにして、応用は大学で」(稲坂准教授)、「科学的に自分の主張を展開する技術が必要だ」(信川准教授)などの意見が出された。

新任紹介



諸隈 智貴 (敬称略)

(惑星探査研究センター 主席研究員) まだわからないことだらけですが、これまで続けてきた研究を進展させつつも、どんどん新しいことにもチャレンジしていきたいと思えます。趣味はスポーツ観戦。

四季雑感

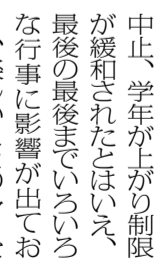


早いもので2022年も3月が経ちました。17年に入職してから新習志野教学センター所属でしたが、昨年10月に就職・進路支援部へ部署異動になり、早くも半年ほど経過しました。新習志野にいた時には主に1・2年生の相手をするのがメインでしたが津田沼では

3・4年生の相手がメインになります。そのため数年前に、新習志野の窓口で見かけたことがある学生を津田沼で見ることがあり、感慨深くもあります。特に窓口へ何度も来る学生は印象深く残っているものです。

話は変わりますが、最近、大学時代の同期と再会しました。しかもそれが学内で行われる就活イベントの参加企業の一員としてでしたので、このような偶然があるのかと

編集だより



本学の学位記授与式を迎える前に、娘の中学校の卒業式に参列した。コロナ禍の影響もあり、今年2年前、新型コロナの感染が広がりはじめた時期に学生生活を過ごしている。

この学報「ニュースCIT」を読んでくださるご父兄の方から「息子が楽しんで学業に励んでいる様子がわかって、親ばかと思いつつ御礼の手紙を出した次第です」とお便りをいただいた。保護者の皆様、すべての学生の様子を伝えることは難しいけれど、令和4年度も奮闘したいと思います。

就職・進路支援部 川畑 仁嗣

入試広報部 大橋 慶子

4月1日(金)〜8日(金)新入生ガイダンス、5日(火)入学式、11日(月)授業開始

情報教育で高大連携を

高校教諭セミナー オンラインで開催

「情報科目共通必修化に伴う課題と高大連携の可能性」情報デザインを通して考える」と題した本学の高校教諭向けオンラインセミナーが1月25日、初開催された。

「情報」の意味や、大学の情報教育、社会で今後必要とされる情報技術と知識について議論した。コーディネーターを長尾徹・副学長(デザイン科学科教授)が務め、パ

ネリストに信川創・情報工学科准教授、稲坂晃義・デザイン科学科准教授、小早川真衣子・知能メディア工学科助教の3人が参加。

情報科目は学習要領では「情報IとIIの学習を総合し、進化させ、問題の発見、解決に取り組

み、新たな価値を創造する」とされている。セミナーでは「情報とをどう教育するかという」の科目内容と、大学の授業内容との関連性を解説した。

最後に、長尾副学長は「リテラシー(理解し読み書きする能力)に必要な思考力や課題解決方法は一つではなく、いろいろな方法があることを理解して学んでいくことが情報教育にとって重要」として、情報教育の高大連携を計画的に進めていく考えを示した。

人とのコミュニケーションや、その手段がすごいスピードで変革している今、課題を主導的に解決できる創造型人材が求められる。セミナーでは高校の必修科目



長尾副学長



信川准教授



稲坂准教授



小早川助教

「データをみる基礎的な部分は高校で理解できるようにして、応用は大学で」(稲坂准教授)、「科学的に自分の主張を展開する技術が必要だ」(信川准教授)などの意見が出された。

最後に、長尾副学長は「リテラシー(理解し読み書きする能力)に必要な思考力や課題解決方法は一つではなく、いろいろな方法があることを理解して学んでいくことが情報教育にとって重要」として、情報教育の高大連携を計画的に進めていく考えを示した。

最後に、長尾副学長は「リテラシー(理解し読み書きする能力)に必要な思考力や課題解決方法は一つではなく、いろいろな方法があることを理解して学んでいくことが情報教育にとって重要」として、情報教育の高大連携を計画的に進めていく考えを示した。

最後に、長尾副学長は「リテラシー(理解し読み書きする能力)に必要な思考力や課題解決方法は一つではなく、いろいろな方法があることを理解して学んでいくことが情報教育にとって重要」として、情報教育の高大連携を計画的に進めていく考えを示した。

最後に、長尾副学長は「リテラシー(理解し読み書きする能力)に必要な思考力や課題解決方法は一つではなく、いろいろな方法があることを理解して学んでいくことが情報教育にとって重要」として、情報教育の高大連携を計画的に進めていく考えを示した。